

「ともに 学び 挑み 夢を語る」

校長 吉里 達哉

正門や校庭の桜が満開に咲き誇り、新1年生28名を迎え、82名の生徒とともに新年度の始まりです。

昨年度までの学校教育目標「豊かに かしこく たくましく」は、平成14年度より昨年度まで続きました。今年度よりあらたなものに変わります。

「ともに 学び 挑み 夢を語る生徒」です。今を生きる目の前の生徒を大事にし、生徒、教師、家庭・地域「ともに」学び、様々な物事に挑戦し続け、主役である生徒が夢を語れるようになってほしいという願いから、この学校教育目標にしました。

今年一年間、愛され信頼される学校づくりをめざします。どうぞよろしく願いいたします。

~~~~~  
令和4年度 第76回入学式 校長式辞の中より

みなさんは、イソップ童話の「うさぎとかめ」のお話を知っているでしょう。この話は、油断をして怠けたうさぎが負けて、一生懸命、最後までがんばった、かめが勝ったということによく知られている話です。この話は、それだけでなく、こんなふうには解釈できないでしょうか。

うさぎに競争しようと、もちかけられたかめは、競争ではかめに負けるだろうということをも最初から、わかっていたのではないのでしょうか。では、どうしてこの競争に挑んだのでしょうか。理由は二つあると思います。一つは、勝つという可能性の少ない勝負の結果にこだわることも、困難から逃げないという前向きな心、二つ目は、競争ということよりも、ゴールまで走り抜けたという、自らの目標に自分で挑戦してみようと考えたのではないかと思います。

一方、うさぎはどうでしょう。うさぎは、自分の可能性に挑戦しようとする気持ちよりも、足の遅いかめに勝てればよいという安易な考え方だったのではないのでしょうか。また、ゴールまでたどり着こうとすることが目標ではなく、かめに勝てればよいという結果のわかっている競争心だったのではないのでしょうか。

かめとの比較でしか自分を考えていなかったのです。だから、うさぎは本気にもならなかったし、途中で眠ってしまったのではないかと思います。このような狭い偏った競争心や友達との比較は、自分の力をあまやかすことだけでなく、思いどおりにいかないと友達をねたんだり、うらやんだりすることにもつながります。かめは、うさぎに勝てるというほんの少しの可能性とゴールまでたどり着こうとする自分の目標の実現に向かってひたすらチャレンジしたのだと思います。

「ともに 学び 挑み 夢を語る生徒」ということは、自分の目標に向かって挑戦し続けることだと思います。みなさんの中には、たくさんのおよさや可能性があります。そのよさや可能性は、挑戦することによって実を結ぶものであり、磨くことを通して、一層かがやきを増すのだと思います。平野中学校のみなさんのよさや可能性を花ひらかせる場や機会がたくさんあります。前向きにいろいろなことに挑戦し、自らを伸ばしてほしいと願います。もちろん、先生方もそのためにこそ最大限の努力をします。

結びにあたり、新入生の保護者のみなさまに一言御挨拶申し上げます。本日は、お子様のご入学、誠にありがとうございます。制服に身をつつんだお子様の成長した姿に喜びも、ひとしおのことよ存じます。本日より、3年間、大切なお子様をお預かりいたします。微力ですが全職員一丸となって。かけがえのない一人一人を大切に、夢を語り、子どもたちのよさや可能性を生かし、心身を鍛え、心やさしく、たくましく生き抜く人間になるよう日々全力を傾注してまいります。

## ◇平野中学校の特色 「かがやきサイクル」

本校の特色でもある「かがやきサイクル」。「準備 → 本番 → 振り返り → 改善」をすべての教育活動において取り組むことで、生徒の可能性を开花させ、生徒の力を伸ばすルーティーンでもあります。学校教育目標の達成に欠かすことのできない実践でもあります。

<学校教育目標> 「ともに 学び 挑み 夢を語る生徒」

<合言葉> ～ かがやきサイクルでレッツチャレンジ! ～

<めざす学校像> 「夢を語り 笑顔・活力・思いやりのある学校」

- 目標や夢に挑戦し続ける学校
- 思いやりと活力のある学校
- ともに学び合い 高め合う学校

<めざす生徒像>

- 自ら学び 考える生徒
- 心やさしく たくましい生徒
- 心身を鍛える生徒

<学校経営の基本理念>

- 学校は 生徒・教師ともに楽しく  
学び合い、高め合う場である
- 学校は 未来を創る 子どものためにある
- 学校は地域立であり 信頼から成り立つところである



### ○小中一貫教育の継続

平成25年度よりスタートした平野小学校との小中一貫教育の取組を今年度も継続します。文科省の教育課程特例校の利点を生かし、中1ギャップの解消や生徒一人一人の伸びを確実なものとなるよう、研究・実践を進めて参ります。

\*今月号はA3版両面印刷ですが、次号からA4版両面印刷となります。

## ♪ 今月の歌

花

春のうららの 隅田川  
のぼりくだりの 船人が  
櫂のしづくも 花と散る  
ながめを何に たとふべき

見ずやあけぼの 露浴びて  
われにも言ふ 桜木を  
見ずや夕ぐれ 手をのべて  
われさしまねく 青柳を

錦おりなす 長堤に  
くるればのぼる おぼろ月  
げに一刻も 千金の  
ながめを何に たとふべき

作詞 武島羽衣  
作曲 滝廉太郎

### 【曲について】

○作曲家・滝廉太郎が作曲した歌曲集『四季』の第一曲め。一番の歌詞は源氏物語「胡蝶」の巻で詠まれた和歌がもとになり、三番は蘇軾の詩「春夜」の一節の内容が反映されている。当時ボート競技が盛んだった隅田川の情景が歌われています。